

高本恭吾

第二回授業

よかった点:しっかりと事前準備をして、色々考察を練り合わせながら、答えのない問題に対しても、深く考え抜くことができた。

悪かった点:無責任なことを述べないためにも、告白を今するべきではないと判断できたのはよかったと思うが、将来的に告白をすればいいというのは、先生のおっしゃる通り、無責任な判断だと痛感した。また、アンケートも母数が少ない中でたった 1 票の問題を大々的に取り上げてしまった点は反省材料だと思う。

西川茉里

まずお題がかなり面白そうでその上掴みの問いかけも上手くて 90 分が短く感じました。各々きちんと役割分担されていてプレゼン感が出て良かったです！流れの構成がしっかり見えて自分たちがやっていることが分かりやすかったです。アンケートをたくさん実施されていてすごいと思ったんですが、もう少しまとめたほうがフロアの人達も注目しやすい資料になったと思いました。

棗田進太郎

先生を好きになるという身近にありそうで中々ないような題材は一見簡単にみえるが、考えていくうちに何をしたらいいのか分からなくなって趣旨がぶれることがあると思うが、最後のまとめまでスッキリ内容の大きな脱線もなく、きっちりまとめていて凄いと思った。

中井 美裕

良かった点: グループのみんなで話し合ってアイデアを出して今回のテーマを考えることができました。プレゼンもスムーズに行うことができました。

悪かった点: 少しわかりにくい質問をしてしまったことと、ゼミ内でのアンケートにも関わらず 1 票の質問を大きく取り上げたことです。

崎山綾香

良かった点は、グループのみんなで協力して意見を出し合いながら今回のテーマについて深く考察し、最後まで大きく崩れずにプレゼンできたことです。悪かった点は、先生も仰ってたように、母数の少ないアンケート結果の 1 票を取り上げてしまったことです。あと、グループワークが毎回同じメンバーだったので途中で変えれば良かったと反省してます。

川端 真由

導入部分から惹き付けられて面白かったです。まとめの部分も先生側、生徒側、世間体などの方面からよく考えられていて良かったと思います。グループワークの時の質問も丁寧

にしてくれたので分かりやすく、話し合いやすかったです。また、アンケートの結果を鵜呑みにせず、使うべき情報かどうか見極めるという点について勉強になりました。

新谷

グループワークの内容が面白かったです。さまざまな視点でテーマを考察できていてよかったと思いました。強いて言うなら、発表が早口に感じた部分があったのもう少しゆっくり話してもらえると聞きやすいと思います。

清水陸人

グループワークで話し合う内容が面白く、想像しながら話せて楽しかったです。あと話し合いしている時にみんなが回っていて、良かったなと思います。話し合いのメンバーがずっと一緒だったので、途中で変えても良かったのかなと思います。

三木美裕理

第2回目の授業

良い点

黒板がとても見やすかったです。
後からいつ、見直しても見つけやすかったところが良いところだと思いました。
ずっと同じメンバーだったので、メンバーの入れ替わりがあればさらに面白いグループワークができたかなと思いました。

白澤卓也

良い点

資料がとても見やすく、想像しやすかった。

反省点

グループワークの時に、周りすぎるのも逆に良くないかなと思いました。

尾崎星太

資料が冊子の形式である事にとっても興味を惹かれた反面、文字が少し見にくいとも思った。発表はとても準備されていて、わかりやすくまとめられていたので、文章が少し複雑でも理解できた。

籠谷郁吹

良かった点

グループ全員の意見を出すことによって様々な考察が生まれて色々なアンケートも実施することができスムーズに進みました。

悪かった点

ずっと同じ席で席替えもなく同じ人と考えてばかりだったので他の人と考えていればまた何か違う意見が生まれたかもしれません。

金山恵大

先生を好きになったという答えを出しにくい問題だったと思うが、アンケートやグループワークを通してわかりやすく発表してくれたので、理解しやすかった。

つちやよしき

良い点

「先生を好きになった」というテーマを、年下・年上や先生・生徒というふうに要素を分けたり、両方の視点を考えてみたりしているのがよかった。

年上と年下で許せる年齢差に差が出るのではないかという発想も面白かった。

実際の事例などを出して、相談欄の回答としての模範例を突き詰めているのも良かった。

良くないかなという点

1割と見ても10人中1人とみても4人グループ全員がその属性に属していない可能性が高い。「どういう理由でこう選んだか」というのは想像がつかないことの方が多いかな、と思った。

例えば、「どの問題が解決されたら自分はこう選んでもいいと思えるか」というふうな質問ならより答えやすくなるかな、と思った。

増田光樹

良かった点

3グループそれぞれが何個も意見を出してくれ、たくさんの例と考察を結びつけることが出来ました。また冒頭で好きな芸能人を考えてもらい議題に興味をひかせることができたのではないかと思います。

悪かった点

1割の人の意見を引き出して考察するのは公平性を考えると良くなかったかもしれないと思いました。また、グループで考えてもらわなければならないのに多く引き出そうとしてグループの話に介入してしまったことです。

nakcazawa

ようやく全員のコメントが出揃いましたね。増田くん、2回連続最後でしたし、今回は僕からの督促を受けての書き込みです。ゼミ活動スタート早々これでは先が思いやられるので、次回は増田くんがトップバッターで書き込みましょう。

さて、2回目の今回も、1回目の良い点をうまく引き継いで、プレゼンを作っていましたね。

いきなり本題に入らず、アイスブレイクのようなことから始めて、徐々にプレゼンテーマの核心に迫っていくという進め方は、応用範囲が広いので、ぜひ身につけましょう。気づいたら本題に入っていた、というのが理想。特に皆さんが 22 期生募集の際の公開ゼミでプレゼンする際は、見学に来た 2 回生をうまく巻き込んでください。

グループワーク、板書、役割分担、すべて良かったのですが、あえて反省点を一つ挙げておきましょう。

「800 字以上、1200 字以内」と書かれていることから想像がつくように、これは試験問題です。（大学の教育学部の小論文です。）ということは、答案を採点して、序列化しなければなりません。そうすると、きちんとした採点基準がないと、採点の公平性が損なわれます。小論文なので、唯一絶対の解答は存在しませんが、こういうことが書いてあれば加点、逆に、こういうことが書いてあれば減点、という採点基準が存在しなければなりません。当然、なぜそれが加点（減点）対象になるのか、という理由も必要です。そういう点にまで踏み込んで、最後のまとめにして欲しかったですね。「R 子さんのつらい気持ちに寄り添って共感する言葉が書かれている→加点対象→その理由は・・・」「告白をすすめる→減点対象→その理由は・・・」といったふうに。

3 回目の論題ももともとは大学の医学部の小論文の問題ですので、こうした点を意識して準備してもらえたら、と思います。